令和７年度 第５回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和８年３月１２日（木）午後６時３０分～午後７時３０分
会場：墨田区役所１３階１３１会議室

次第

１　開会

２　議題
（１）「墨田区こども計画を踏まえた今後の子ども施策・子育て支援策のあり方について」
　　答申（案）について

３　その他
（１）「こどもわくわくフェスティバル２０２６」の開催について

４　事務連絡
（１）次年度の開催スケジュール（案）について

５　閉会

配布資料

資料１：墨田区子ども・子育て会議委員名簿
資料２：「墨田区こども計画を踏まえた今後の子ども施策・子育て支援策のあり方について」
　　答申（案）
資料３：令和８年度の開催スケジュール（案）

出席者（敬称略）

○委員

西村　孝幸（墨田区私立保育園協会）
西島　由美（墨田区医師会）
古屋　真（学識経験者（駒沢女子短期大学教授））
八重田　裕一朗（墨田区児童館）　※オンライン出席
東　百代（墨田区私立幼稚園連合会）
千原　祐子（墨田区子育てひろば）
出沼　俊夫（墨田区民生委員・児童委員協議会）
二藤部　智子（墨田区立小学校ＰＴＡ協議会）
黒木　為則（墨田区立中学校ＰＴＡ連合会）
田村　美帆（墨田区青少年委員協議会）
小林　厚子（墨田区青少年育成委員会連絡協議会）
佐藤　まり子（認証保育所連絡会）
賀川　祐二（すみだ子育て支援ねっと「はぐ」）
中村　彩子（小規模保育事業所連絡会）
稲吉　美穂（区民公募委員）　※オンライン出席
末田　豪（区民公募委員）
武田　舞（区民公募委員）
飛髙　加奈子（区民公募委員）
眞能　貴代（区民公募委員）
山口　寛子（区民公募委員）
金澤　里美（墨田区立幼稚園長会）
増渕　裕美（墨田区立小学校長会）
遠藤　博則（墨田区立中学校長会）
竹嶋　啓子（墨田区立保育園長会）

傍聴者　　２名

○事務局出席者

髙橋　義之（子ども・子育て支援部長）、岩瀬　均（教育委員会事務局次長）、大島　悠樹（子育て支援課長）、遠田　和寛（子育て政策課長）、細谷　勇治（子ども施設課長）、桂本　圭子（指導検査課長）、野澤　典子（子育て支援総合センター館長）、梅原　和恵（副参事（子ども・家庭支援連携担当））

議事概要

1　開会

2　議題

（1）「墨田区こども計画を踏まえた今後の子ども施策・子育て支援策のあり方について」答申（案）について（資料2）

委員	今年度第1回の会議において、区長から「墨田区こども計画を踏まえた今後の子ども施策・子育て支援策のあり方について」の諮問を当会議に受けた。会議では、これまで委員の皆様から多くの御意見をいただき、反映しながら答申案を作成した。内容を確認し、最終的な決定をしたいと考えている。
事務局	答申案について説明する。 答申書案をまとめるに当たって、第2回から第4回までの本会議において各論点について議論を行い、特に子ども・子育て支援についての今後の課題や求められることについて、会議全体の意見として集約したものを答申として記載している。 2ページ目では、区子ども・子育て支援総合計画の進捗状況の確認に関する事項をまとめており、前計画の総合評価や現計画の進捗管理について目標と計画の設定、把握しやすい成果指標の設定などを示している。3ページ目では子どもの意見聴取と子ども・子育て支援施策の情報発信に関する事項として、子どもや若者の声を聴くための工夫や意見表明しやすい環境づくり、情報発信方法の整備について記載している。4ページ目では区こども条例の実効性を高めるために、条例の周知・普及や実効性を高めるための方策として、育ち学ぶ施設における関係者間への浸透、着実な進捗管理、定期的な運用状況の検証の必要性などについて記載している。
委員	これまでの各回の議論を項目別に大きく3つに分けてまとめたものであり、これを土台に来年度以降も議論を続けたいと考えている。ひとまずこの形で答申を提出することを考えているが、質問や意見はあればお願いしたい。
	（意見なし）
委員	確定し、答申案の「案」を取って区長に提出したい。
事務局	答申案につきまして委員の皆様から御了承いただいたので、答申として区長お渡しする予定である。
委員	答申案につきましては、3月末に区長にお渡しする。その際、これまでの会議体の中での様子なども併せて説明をさせていただきたいと考えている。

3　その他

（1）「こどもわくわくフェスティバル２０２６」の開催について

事務局	こどもわくわくフェスティバル２０２６について説明する。このイベントは「こどもまんなかすみだ」の定着に向けて地域の皆様とともにつくる子どものためのイベントである。昨年はボランティアの方や出店で委員の皆様に御協力をいただき大変好評だったことを受けて、次年度に３回目を開催するものである。令和８年度においても引き続き、子ども・子育て会議と区が主催となって開催し、日程は５月３１日（日）を予定している。これまでは午前１１時からの開催だったが、以前この会議において委員から開催をもっと早められないかという声をいただいたところであり、その御意見も踏まえてイベント内容について事務局で検討を進めている。今後、内容が決まり次第、区のホームページやＬＩＮＥ等のＳＮＳで随時発信していくので御覧いただきたい。
事務局	また、区では今年度、不適切保育再発防止のために、子どもの人権啓発の取組を行ってきた。その中で、1月２５日に包括的性教育の講演会を行い、アーカイブ配信が３月末まで視聴できるため、ぜひ視聴していただきたい。
委員	講演会に当日参加したが、非常に分かりやすく保育園の仕事に役立つ内容であったと思うので、皆様も時間があれば御覧いただきたい。 本会議では、一年を通して様々な意見や感想をいただいた。来期で取り上げるテーマ等についても今後考えていく必要があるため、それぞれの立場で意見等を承りたい。また、これまでの本会議や、子どもや子育てについて、この街で思うことについて、自由に意見をいただきたい。
委員	今年は保育園不足の苦情が非常に多く、０歳児の母親が悲鳴を上げていたのが印象的だった。マンション建設で子どもが増えているが、恐らく一世代を経れば空くため、老人施設への転用など柔軟な施策が必要である。また、老後資金を貯めても介護人材がいない現状があり、お金を循環させる仕組みが必要である。小児科では子どもが減少し、母親は病児保育に預けざるを得ない状況が続いている。子どもが病気をしがちな数年間、有給休暇を増やすなど、社会全体で負担を分担する仕組みを考えるべきである。
委員	来年度、児童館・学童クラブの職員が学べる機会を来週中の研究会で提案したいと考えている。それが実現すれば、学童クラブの職員が研修を受け、子どもたちに自分の体と心を守る方法を各現場で伝えられるようになる。毎年積み重ねていくことで、将来的には中学生・高校生のヤングケアラー問題にもつなげたい。適切な講師がいれば紹介いただきたい。学童クラブは地域と相談しながら進めていく。
委員	先ほど保育園で０歳児が入れないという話があったが、園によって満員の園もあれば空いている園もあり、入りたい園に入れないのが現実である。４月から仕事復帰する方はほぼ入れたが、二次でやっと入れた方や、入園できず休みを一年延ばす方もいた。地域支援や安心ステーションで在宅・在園の保護者双方を受け入れながら一緒に子育てしていける墨田区でありたいと思っている。こども

	条例の浸透が不十分なので、新入説明会でスライドを使って周知し、園長会でも意見交換しながら広めていきたいと感じた。
委員	先ほど時代の話があったが、中学校でも目まぐるしく生徒の様子が変わっている。進級や卒業の面談で保護者と子どもに来ていただいて話を聞いているが、昔の不登校とは全く違うタイプの不登校が増えてきており、時代に合わせていくのが大変である。今回、学びの機会を与えていただいたので、それを生かして育ち学ぶ施設の一員として子どもの成長を支えていければと思っている。
委員	小学校１年生はほぼ学童に行っており、学童施設も大切だと感じた。今年度、子どもの意見聴取のモデル事業を実施し、児童に自分の意見を言う機会を与えていただいた。小学生は言いたいことがたくさんあるので、小さいうちから自分の意見が言えるような環境づくりが必要だと改めて感じた。区こども条例を保護者に伝え、そして子ども自身にも自分の身を守るための大事なものだと教育現場でしっかり伝えていきたい。
委員	今、小学生の子どもを育てているが、学童に入れなかったらどうしようという親の声をよく聞く。自分が子育て会議の委員を務めていることを知っている保護者から、相談を受けたりしていた。子どもの声もそうだが、保護者の声も聴く人がいないと不安が高まって子どもに不安が移ってしまうのだろうなと今回委員をさせていただいて新たに気付いた。
委員	一年間多くの学びを得た。子ども・若者の声を聴くに当たり、言えない・聞けないという課題が子どもにも大人にもある。大人も子どもも中高生も、皆が苦しそうな状況を感じている。どのように話をしたらいいのか、どのように聞いたらいいのか、互いを大切にする対話の方法を考えたい。地域での対話の機会を、大人だけでなく幅広い年齢層で持てればと思う。
委員	学童の件で、支援学級に通う小学生の子どもが学校内の学童ではなく遠い学童に入ることになり、１人で行けるか心配している。支援学級の保護者に聞くと同様のケースが多かった。 今回会議に参加して、こども条例を子どもに教えたいと思った。墨田区は他区より子ども・子育て施策が進んでおり、先日の「こどもまんなかすみだ」フォーラムでは子どものことを真剣に考える大人の熱量に驚いたという声があった。今後も子どもが過ごしやすい環境を考えたい。
委員	私も現役の保護者であり、ビーチボールバレーなどで子どもと関わる機会が多い。区のこども条例や「こどもまんなかすみだ」について、子どものことを考える大人は多いと実感している。ただ、制度が十分に伝わっていない。これを広め、子どもたちに多くの選択肢を持ってもらえるよう尽力したい。
委員	とても学びになった一年間である。今年度は園に空きがあったが、来年度４月の一次募集では入れない方が多数いた。当保育所は空き１名で、入れなかった保護者が何人もいた。今後保育園の整備が必要と感じた。こども条例は現場でも詳しく知られていないため、今後の会議等で伝えていきたい。

委員	保育所の待機児童が増えているが、構造的には子どもが減少している。今後は学童が同様の課題に直面すると感じる。子育て支援政策は事業者のためでなく、子育て家庭や子どものためにあり、需要の変化に合わせて変わるべきである。事業者目線でなく区民の子育て支援を中心に政策を見ていくべきと思った。また、少子化について話す場が少なく、子育て支援政策と少子化の関連性を考えながら会議が運営されていくとよい。
委員	当保育所では、一次募集の結果が出た時は入れなかったという問合せが多くキャンセル待ちが出たが、二次募集では全員が入園できキャンセルとなった。保育園は足りてきていると感じている。５歳までの小さな子どもにこども条例の理解は難しいため、乳幼児期は自分が大切にされていると実感できる取組を進めたい。
委員	一年間大変勉強になった。区全体が子ども・子育てに寄り添っていると感じた。私たちの年代にはこんなに手厚い事業はなかった。孫がおり、その親を見ていると支援の手厚さを羨ましく思う。
委員	こども条例や子育ての各種取組を学んだことに加え、委員の皆様がそれぞれの立場で日頃どのように子どもに向き合っているかを知ることができた。各種イベントや宿泊行事など直接子どもと関わる時間も多いため、今回一年間学んだことを生かして携わっていきたい。情報発信の学びも子育て支援に活かしたいと思う。
委員	中学校の代表として参加しているが、この一年間あまり中学生の話ができなかったことが反省事項である。来年度は中学生や保護者の悩みを共有し、解決に向けて取り組みたい。中学校では不登校やひきこもり、反抗期への対応に悩む保護者がいる。また、部活動では教員の働き方改革により外部コーチを導入しているが、その問題点や導入方法について学校側も悩んでいる。来年度は中学校にも注目して相談しながら進めたい。
委員	小学校の保護者として、区のこども条例を通じて、子どもたちは守られるべき存在であり、自分の意見を言ってよいことを伝えたい。小学生は年齢の幅が広く、意見を言えない子もいるため、学校と協力して子どもたちに伝えられるとよい。様々な委員の方の意見を聞き、この一年間学ばせていただいた。
委員	昨日、児童館の協議会に出席した際の話を紹介したい。甘やかしと愛情の分け方について、５歳の男の子が散歩の帰り道に「抱っこ、おんぶして」と言った例が挙げられた。結論は、子どもの気持ちを受け止めるのが愛情で、親から先に言うのが甘やかしとのこと。区のこども条例にある「こどもまんなかすみだ」の言葉は、子どもの気持ちをまんなかに持っていくすばらしい考え方である。子どもの気持ちを大切にすることが重要だと感じた。
委員	異動で墨田区に来て数年が経ち、墨田区は子どもを大切にし、子育て中の母親にも優しい街だと感じている。子育てひろばには小さい子から幼稚園児まで来ており、楽しそうに過ごす様子を見ると良いところだと思う。当保育所では一次

	で保育園に入れなかった方から電話が殺到したが、二次で入れた方が多かった。しかし、フルタイムで働く母親が入園できず悩んでいる状況もあり、何とかしたいと感じている。
委員	会議に参加し始めた頃は、区民ではなかったため初めて聞くことばかりで驚きの連続であった。継続して参加し、様々な立場の方や保護者の意見を伺うことで、自分なりに理解できるようになってきた。今年度は保幼小中連携の協議会に参加し、小学校や中学校を見学する機会を得た。この会議と合わせて、区の子どもに向かう体制や子どもの姿が自分の中でまとまりつつある。皆さんの話を伺うことが、組織としてできることを改めて考える機会となっている。
委員	ここで得た情報や、保育園に通う身近な保護者の話を聞いて、体制を学び、ありがたみを感じた。そこから園の保護者や未就園児の会に来る親子への情報提供の参考にもなった。ただ、この会議でも情報を取りに行かないと得られないという課題があったため、今後も積極的に発信していきたい。０～２歳で手厚く育てた子どもたちがその後も区の施設に通い続け、つながって育てていけるようになるとよいと思う。
委員	会議に参加するたびに、墨田区に住んでいて幸運だと感じ、常に保育士の皆さんに助けられていると思う。月の半分近く出張で都外に出る際、保育園の保育士や「はぐ」の一時預かりなど、様々なサポートを受けながら子育てできるありがたみを感じている。情報は持っているからこそ活用できると実感している。会議に参加する自分だけのメリットではなく、これを区内の皆さんにどう伝えていくかが課題であり、今後も続けていきたいと改めて思った。
委員	今回初めて参加し、どのような会か分からず参加した。夏に区の新しいサービスを初めて知り、大変助かった。来週も、激戦になりつつもシッターさんの手配をお願いできる。また、様々なイベントに対して計画や反省をしていただき、来年度がより良いものになるよう皆様が尽力されていることが分かった。これからも区民として利用するだけでなく、この会議を通じてこちらからの希望を伝えられる機会があり、大変良かった。
委員	学識経験者という立場で参加させていただき、私自身もたくさんのことを勉強させていただいている。 子どもの意見聴取について、話していいよと言われて話す子どもがどれくらいいるのか。保育の中で中動態という言葉があり、能動態と受動態の間に位置づく言葉である。話してしまうとか聞いてしまうというのはどういう状況なのかということも考えてもいいのではないか。そんな環境をどうやってつくっていったらよいのかということも今後議論できたらいいと思っている。話していいよと言われていることと話してしまうということで出てきたことは本質も変わってくるかもしれない。そんな環境をどうやってつくっていったらよいのかということも今後議論できたらいいと思っている。

	大人に関しては、この会議に参加されている皆様が目の前の子どもたちを守って育てることに一生懸命尽力されているということが伝わってきた。私は心理学のほうも研究させていただいている。私たち大人自身もゆとりを持たないと、子どもが中に入ってこないのではないかと感じている。私たち大人がゆとりを持って子どものことや目の前のことを考えられるような環境を整備していくことも大事な視点である。 そういったことも含めて効果検証が重要になってくると思うので、エビデンスに基づいて税金を投入する先を決めていくということをしっかりと資料を用いて議論していけたら、子ども・子育て会議としての使命を果たせるのではないかと思っている。またどうぞよろしくお願いします。
委員	皆様、様々な意見・感想をありがとうございました。皆様が本当に思いを持ってこの会議に参加していただいていることがよく分かる発言であった。この皆様の思いを来年度以降の会議にもつなげていきたい。

4　事務連絡

（1）次年度の開催スケジュール（案）について（資料3）

事務局	令和8年度の会議は4回を予定している。
委員	最後になるので、御挨拶したい。 一年間、皆様の協力により会議が円滑に進んだことに感謝申し上げる。私立保育園の代表として、保育士不足が続いており安定的な運営のために保育士確保が必要だと感じている。また、4、5歳児クラスが空いている状況も耳にしており、これは保育所施策だけでなく住宅施策やまちづくり施策も含めた大きな問題である。ずっと墨田区で育ち、ふるさとが墨田区になる子どもたちが増えるとよいと思う。この会議は、行政の数字と一人一人の生活や顔といった生の部分を結びつける場であると考えている。皆様の協力により今年度の会議を無事に終えることができた。御礼申し上げる。
事務局	今年度、本日含め5回にわたる会議に参加いただき、御礼申し上げる。先ほど今年度の答申案を取りまとめていただき、3月末に会長から区長に手渡していただける。それを受け、区としてしっかりとその答申の内容を踏まえて来年度も事業を展開していきたい。また、本日の会議でも委員の皆さんから熱心に貴重な意見をいただいた。答申に含まれていない部分も区としてしっかり受け止め、様々な事業を進めていく。引き続き来年度もそういった意見をいただけるようお願いしたい。ありがとうございました。
事務局	一年間ありがとうございました。ずっと墨田区に住み続けてほしいという話があったが、保育や幼稚園の時期が終わると教育委員会の現場となる。小・中学校は先生方の協力で１０年前と比較して学力が大きく向上し、都の中でも上位になった。一方で、学力だけでいいのかという質問が議会であり、子どもたちには体験も大事である。墨田区は地域が土壌を持っており、お祭りやこどもわくわ

	くフェスティバルなど体験する場がたくさんある。子どもたちは大人の背中を見て学ぶ土壌が十分に備わっている。学力と体験、両方で教育力を上げていきたいと考えている。今後ともよろしくお願いしたい。
委員	今年度のこれまでの意見を踏まえ、３月末に答申を区長にお渡しする。

5　閉会

以上